

令和4年度

看護学部FD研究会報告書



自治医科大学 看護学部FD 評価実施委員会

令和4年度 第1回看護学部FD研究会 報告書

1. 日時：令和4年8月25日（木）9：30～12：00
2. テーマ：FDマップを活用したFD活動の「これまで」を振り返り「これから」を考える
3. 対象：看護学部全教員 参加者46名（遠隔参加2名含む） 参加率 100%
4. 本研究会の目的

FDマップのより一層の活用を目指し、本研究会ではFDマップ用いたFD活動の現状と課題を共有し、課題解決策を検討する。

5. プログラム

司会：川上FD評価実施委員

時間	プログラム
9:30 ～ 9:40	開会挨拶（研究会の目的等の説明） 横山FD評価実施委員長
	オリエンテーション（スケジュールや討議内容等の説明） 川上委員
9:40 ～ 9:50	移動 / 担当（司会・発表者）決定 学習室：教授グループ、中教室Ⅵ：准教授グループ 中教室Ⅴ：講師グループ、大教室Ⅱ：助教グループ
9:50 ～ 10:50	・職位別グループ討議 「FDマップを活用したFD活動の現状と課題、解決策の検討」
10:50 ～ 11:05	移動 / 休憩
11:05 ～ 11:45	発表及び全体討議 各職位グループ代表の発表（3分×10グループ）
11:45 ～ 11:55	総評 春山看護学部長
11:55 ～ 12:00	閉会・アンケート記入

6. アンケート結果

1) 回答数 34件 回収率 73.9%

2) 結果の概要

①プログラムについて

・看護学部におけるFDの位置づけ職位別グループ討議

「FDマップを活用したFD活動の現状と課題、解決策の検討」

	満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満
回答数	23	10	1	0	0
(%)	(67.6%)	(29.4%)	(2.9%)	(0.0%)	(0.0%)

・発表及び全体討議

	満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満
回答数	15	14	4	1	0
(%)	(44.1%)	(41.2%)	(11.8%)	(2.9%)	(0.0%)

②時間配分

- ・職位別グループ討議「FDマップを活用したFD活動の現状と課題、解決策の検討」

	短い	やや短い	ちょうどよい	やや長い	長い
回答数 (%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	32 (94.1%)	2 (5.9%)	0 (0.0%)

- ・発表及び全体討議

	短い	やや短い	ちょうどよい	やや長い	長い
回答数 (%)	0 (0.0%)	2 (5.9%)	31 (91.2%)	1 (2.9%)	0 (0.0%)

③今後のFD活動への有益性

	そう思う	まあそう思う	どちらとも言えない	あまり そう思わない	そう思わない
回答数 (%)	17 (50.0%)	13 (38.2%)	4 (11.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

3) 次回以降のテーマや企画等についての希望

- ・研究や社会貢献の足がかりとなるような企画を希望する。
- ・本学部が求める教員像については、教員ではなく学部運営全体で考えるということも必要であるとする。
- ・実習体制の充実を図るため、実習指導時の困りごとや工夫等の共有や検討できる機会が欲しい。

7. 研究会全体の進行状況および概要

全体的にスムーズに進み、グループ討議では率直な意見交換がなされた。FDマップの活用状況は、学科目責任者が学科目を構成する教員の面接時などに使用している、あるいは、大学の教員として自己を振り返る時などに使用しているという意見等があり、活用の実態について活発な意見交換がなされ発表に反映されていた。FDマップに基づくFD活動の実践について、それぞれの取り組みを共有できたと考えられる。

8. 評価

1) 目的達成状況

本研究会の目的は、「FDマップのより一層の活用を目指し、本研究会ではFDマップを用いたFD活動の現状と課題を共有し、課題解決策を検討すること」であったが、参加状況やアンケートの結果より、FDマップを用いたFD活動の現状の共有は十分に行えたといえる。課題の共有や解決策の検討に関する意見は出されず、FD活動の現状の共有が主であったが、参加者アンケートによると、全体の満足度は高く、現状の共有について職位毎に意見交換できたことは、FD活動への意識の高まりにもつながったことが伺われ、概ね目的は達成されたと考える。

2) 今後の課題

FDマップを用いたFD活動についての問題意識については、今後、必要に応じて検討していく。今回のアンケート結果から、希望するテーマとして、研究や社会貢献の足がかりとなるような企画や本学部が求める教員像、また、実習体制の充実を図るため、実習指導時の困りごとや工夫等の共有や検討できる機会についての意見があったことから、企画につなげて行く。

以上

令和4年度 第2回看護学部 FD 研究会 報告書

1. 日時：令和5年3月8日（水）9：30～12：00
2. テーマ：演習科目における効果的なルーブリック活用方法の検討
3. 対象：看護学部全教員 参加者46名 参加率100%
4. 本研究会の目的
演習科目のルーブリックの活用状況ならびに活用上の困難事と工夫を共有し、効果的な活用方法を検討する。
5. プログラム

時間	プログラム
9:30 ~ 9:40	開会挨拶（研究会の目的等の説明） 横山 FD 評価実施委員長
	オリエンテーション（スケジュールや討議内容等の説明） 長谷川委員
9:40 ~ 10:45	演習科目におけるルーブリック活用方法の紹介 ①看護技術演習の評価 ：看護技術演習Ⅲ 内堀准教授 ②看護過程演習の評価 ：成人実践看護学Ⅱ 古島講師 ③グループで取り組む演習の評価：公衆衛生看護方法論 青木講師
10:45 ~ 10:55	休憩
10:55 ~ 11:45	質疑応答・全体討議 「演習科目における効果的なルーブリック活用方法とは ～活用上の困難事と工夫に基づく検討～」
11:45 ~ 11:55	総評 春山看護学部長
11:55 ~ 12:00	閉会・アンケート記入

司会：長谷川・市川 FD 評価実施委員

6. アンケート結果

1) 回答数45件 回収率 97.8%

2) 結果の概要

①研究会の有用性（研究会が役に立ったか）

	そう思う	まあそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない
回答数 (0%)	30 (66.7%)	14 (31.1%)	1 (2.2%)	0 (0%)	0 (0%)

②時間配分

・運営時間

	短い	やや短い	ちょうどよい	やや長い	長い
回答数 (0%)	0 (0%)	2 (4.4%)	37 (82.2%)	6 (13.3%)	0 (0%)

・運営方法

	そう思う	まあそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない
回答数 (0%)	27 (60.0%)	17 (37.8%)	0 (0%)	1 (2.2%)	0 (0%)

③研究会の事前準備（複数回答可）

	一般的なルーブリックの必要性や活用方法について学習した（再学習を含む）。	看護教育におけるルーブリックの必要性や活用方法について学習した（同左）。	担当している授業科目のルーブリックを確認した。	担当している授業科目のルーブリックの修正点を検討した。	担当している授業科目のルーブリックの活用方法を確認した。	担当している授業科目のルーブリックの活用方法の修正点を検討した。	その他
回答数 (0%)	32 (71.1%)	36 (80.0%)	29 (64.4%)	12 (26.7%)	14 (31.1%)	7 (15.6%)	0 (0%)

④「医学書院 Nursing Education Online」の登録状況及び利用状況

	登録して利用した	登録したが利用していない	登録していない	未記入
回答数 (0%)	31 (68.9%)	4 (8.9%)	9 (20.0%)	1 (0%)

3) 次回以降のテーマや企画等についての希望

・学生の最近の変化の共有と変化に対する教育上の工夫について全員での検討。（1件）

7. 研究会全体の進行状況および概要

研究会には、全教員がルーブリックに関わる再学習や確認をして臨んだ。発表では演習科目のルーブリック活用上の困難事として、学生に伝わりやすい表現方法、学生と教員の評価の乖離、学習途中のルーブリックの未活用等が挙げられた。それに対する工夫として、定期的な見直しや学生への働きかけ等が発表された。さらに、全体討議では、発表学科目以外の先生方からもルーブリックの活用状況や課題について発表と意見交換がなされた。

最後に、春山学部長から、討議結果と本学の方向性を踏まえて、目的を確認した上でのルーブリックの導入と各科目がルーブリックの目的と必要性を十分に吟味して運用にあたってほしいとの総評をいただいた。

8. 評価

1) 目的達成状況

質疑応答・全体討議では、発表をふまえて効果的なルーブリック活用方法や課題について活発に意見交換がなされた。アンケートの結果では、「研究会は役に立ったか」という問いに「そう思う」「まあそう思う」を合わせると97.8%となり、「有意義であった」「活発に討議ができてよかった」等のコメントがあった。さらに、アンケートの結果では「具体的に学べ、今後見直して行きたい」「研究会の目的が深められた」等のコメントもあり、ルーブリック活用への意識の高まりにもつながったことがうかがえた。このことから演習科目のルーブリックの活用状況ならびに活用上の困難事と工夫を共有し、効果的な活用方法を検討が行えたといえ、目的は達成されたと考える。

2) 今後の課題

今回のアンケートで「グループワーク実施」の意見があったことから、今後は各教員の思考や経験を表現・共有する場の確保を検討する。学生の自己評価の課題があることから、ルーブリックの目的や意図を共有する工夫の充実を図る。

以上